

第1学年体育科学習指導案

日 時 令和7年9月4日(木)
第5校時 13:25～14:10
学校名 日野市立平山小学校
対 象 1年2組 31名
わかさ学級1年 3名
会 場 大会議室
授業者 T1 乙津京香 (教諭)
T1 鈴木一葉 (教諭)

1 単元名 「バランス発明家になろう！」

A 体づくり運動 イ 多様な動きをつくる運動遊び

2 単元の目標

知識及び運動	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<p>ア 体ほぐしの運動遊びでは、手軽な運動遊びを行い、心と体の変化に気付いたりみんなで関わり合ったりすることができるようにする。</p> <p>イ 多様な動きをつくる運動遊びでは、体のバランスをとる動きをすることができるようにする。</p>	<p>体をほぐしたり、多様な動きをつくったりする遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。</p>	<p>運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達と協力して準備や片付けをすることができるようにする。</p>

3 単元の評価規準

ア 知識・運動	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①体ほぐしの運動遊びの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。</p> <p>②多様な動きをつくる運動遊びの行い方について知り、運動に取り組んでいる。</p>	<p>①体ほぐしの運動遊びで心や体の変化に気付いたり、工夫したり、楽しい運動を友達に伝えたりしている。</p> <p>②楽しくできる多様な動きをつくる運動遊びを選んでいる。</p> <p>③多様な動きをつくる運動遊びで友達のよい動きを見付けたり、楽しい遊び方を友達に伝えたりしている。</p>	<p>①多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組もうとしている。</p> <p>②順番やきまりを守り、友達と仲よく運動している。</p> <p>③友達と協力して用具の準備や片付けをしようとしている。</p>

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）体育
第 1 学年及び第 2 学年 A 体づくり運動

- (1) 次の運動の楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、体を動かす心地よさを味わったり、基本的な動きを身に付けたりすること。
- ア 体ほぐしの運動遊びでは、手軽な運動遊びを行い、心と体の変化に気付いたり、みんなで関わり合ったりすること。
- イ 多様な動きをつくる運動遊びでは、体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをすること。
- (2) 体をほぐしたり多様な動きをつくったりする遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすること。

を受けて設定した。また、小学校学習指導要領解説体育編（平成 29 年 7 月）の内容を踏まえ、本単元における児童に味わわせたい運動の特性を以下のようにまとめた。

○一般的特性

【体ほぐしの運動遊び】

- ・子供自身の「できた」を積み重ねられる運動である。
- ・体を動かす楽しさや心地良さを味わうことにより、自分や友達の体の状態に気付き、体の調子を整えたり、友達と交流したりする運動である。

【多様な動きをつくる運動遊び】

- ・遊びの中で自然に体を動かすことができるため、楽しみながら取り組むことができる運動である。
- ・片足で立つ、ジャンプして着地する、回転するなど、基本的な動きを組み合わせることができる活動が多く、運動能力の基礎作りに有効な運動である。
- ・様々な動きを経験させることで、身体適応力や運動感覚が向上する運動である。
- ・運動遊びの楽しさを経験することで、運動への肯定的態度や継続的な運動習慣につなげることができる運動である。

○児童から見た特性

- ・楽しみながら体を動かすことで、体の基本的な動きを培うことができる運動である。
- ・友達との交流を通して、1 人ではできない体の動きに気付くことができる運動である。
- ・友達との関わり合いによって、動きの幅を広げることができたときに楽しさを感じられる運動である。
- ・動きや活動を工夫することで、運動内容を発展させることができ、意欲の向上につながる運動である。

(2) 児童観

本学級の児童は、ダンスやゲームなど、音楽や遊びの要素がある活動に積極的に参加している。休み時間には9割以上の児童が校庭で遊んでおり、特に鬼遊びや固定遊具を使った遊びが人気である。

1学期の体づくり運動では、用具を操作する運動遊びを行い、日常生活では行われない動きを楽しんでいた。自分で遊び方を考えたり、工夫したりする児童と、「できないからやりたくない」と諦めてしまう児童に二極化した。

また、不安や理解が不十分なことがあると、行動に移せない児童もあり、友達と協力して何かを成し遂げることが難しい状況にある児童もいる。

本単元は、集団で行う運動が中心となる。学級全員だけでなく、わかくさ学級の児童とも交流しながら、体ほぐしの運動遊びや体のバランスをとる運動遊びに取り組んでいく。

この活動を通して、児童が「みんなで協力し、助け合いながら体を動かす楽しさ」を体験できるようになることを目指す。

(3) 教材観

「体づくりの運動遊び」は、「体ほぐしの運動遊び」及び「多様な動きをつくる運動遊び」で構成され、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な動きができるようになる学習である。

本単元では、まずは「体ほぐしの運動遊び」に取り組み、自分の体の状態に気付き、体の調子を整えたり、仲間と豊かに交流したりすることで、緊張した場を和ませ、友達とのコミュニケーションを円滑に行うことができるようなアイスブレイク的な位置付けとして考えた。続いて行う「多様な動きをつくる運動遊び」では、担任が例示した遊び方の模倣から始め、最終的には自ら工夫して生み出した姿勢に取り組み、伸び伸びと体を動かす心地よさを十分に味わわせたい。

この単元全体を通して、様々な動きを経験することで、体を動かすことがより好きになり、楽しさを味わえるようになることを大切にしたい。

5 研究主題に迫る手だて

(1) 個別最適・課題解決

① 全体を把握するためのT1二人制

普段とは異なるT1の二人体制をとることで、児童一人一人の困り感や、児童の遊び方における工夫点などの児童の変化をより多く見取れる体制であると考えた。児童の挑戦していることや変化を全体に共有することで、他の児童の課題解決につなげたり、挑戦している遊び方を完成に近付けたりできるように促していく。また、児童の良さを伝えることによって、多様な動きをつくることに自信をもつことができるように支援していく。

特別支援学級の児童だけでなく、本学級にもバランス運動遊びや表現リズム遊びが苦手な児童がいる。そのため、特別支援教育的視点を取り入れ、児童のニーズに合った指導を行えるようにする。

(2) 対話・協働

① 新たな遊び方を見付ける「発明タイム」

発明タイムとは、第1時と第2時で学んだ体のバランスを取る運動遊びを通して、自分オリジナルのバランス遊びを考え、実施する時間である。発明タイムでは、自分でバランス遊びを発明していく時間と友達がつくったバランス遊びを見る時間がある。発明する時間では、児童一人一人が身体全体を使って、どのようなバランス遊びができるかを考え、想像した動きに挑戦する。近くの友達の遊びを参考にしたり、「どうやってやったの。」、「どうしたら同じ動きができるの。」などの対話を大切にしたりしていきたい。また、子供たちのチャレンジ精神やアイデアを引き出すことを大切にしたい。他の児童の動きを見る時間では、発明する時間で教師が見取った手本の動きや参考になる動きを行なった児童を選び、全員の前で発表してもらう。児童とどのようなところが良かったかを話し合い、また参考にすべきところを伝えることによって、より自分の発明にのめり込むことができると考えた。

② 遊び方を発展させるための写真の活用

毎時間、児童の遊び方を写真に撮り、次時の始めに児童に見せて紹介する。めあてにつながるバランス遊びを提示することで、それを基に児童がより発展した遊び方を探すことにつながり、意欲的に学習に取り組む姿勢も引き出せると考えた。

6 単元の指導計画と評価計画(全5時間)

時間		1	2	3（本時）	4	5
問題解決の流れ		つかむ			広げる	
ねらい		・体ほぐしの運動遊びについて知り、友達と楽しく行う。 ・体のバランスをとる運動遊びについて知り、挑戦する。			体ほぐしの運動遊び・体のバランスをとる運動遊びに積極的に取り組み、遊び方を工夫して、みんなで楽しく遊ぶ。	
主な 学習活動		1 場の準備 2 集合・整列・挨拶 3 本時の見通しをもつ 4 準備運動・補助運動				
		5 体や気持ちの状態の確認 6 体ほぐし運動遊び ・せーので立てるかな ○体ほぐし運動遊びの行い方を知る。 7 体のバランスをとる運動遊び ・だるまさんがふーらふら（脚でバランスを取る遊び中心） ○体のバランスをとる運動遊びの行い方を知る。 ○体のバランスをとる運動遊びをする。	5 場の準備 6 体ほぐし運動遊び ・せーので立てるかな 7 体のバランスをとる運動遊び ・だるまさんがふーらふら（お尻等の足以外の部分でバランスを取る遊び中心） ○体のバランスをとる運動遊びをする。	5 場の準備 6 体ほぐし運動遊び ・せーので立てるかな 7 体のバランスをとる運動遊び ・だるまさんがふーらふら 8 発明タイム ・既習の遊び方を基に、新たな遊び方をつくる。 9 新しいバランスの遊び方の紹介（児童又は担任） ○友達の良い動きを見ついたり、考えたりしたことを伝える。 10 発明タイム② ○見たり紹介されたりした友達の遊び方を基に、新たな遊び方をつくる。		
		振り返り → 整理運動 → 健康観察 → 挨拶 → 用具の片付け				
評価 （方法）	ア 知・技	② （行動観察）	① （行動観察）			① （行動観察）
	イ 思・判・表		② （行動観察）	③ （行動観察）	① （行動観察）	
	ウ 主			② （行動観察）	① （行動観察）	③ （行動観察）

7 本時（全5時間中の第3時）

（1）本時の目標

◎積極的に体ほぐしの運動遊び・体のバランスをとる運動遊びに取り組もうとしている。

（学びに向かう力、人間性等）

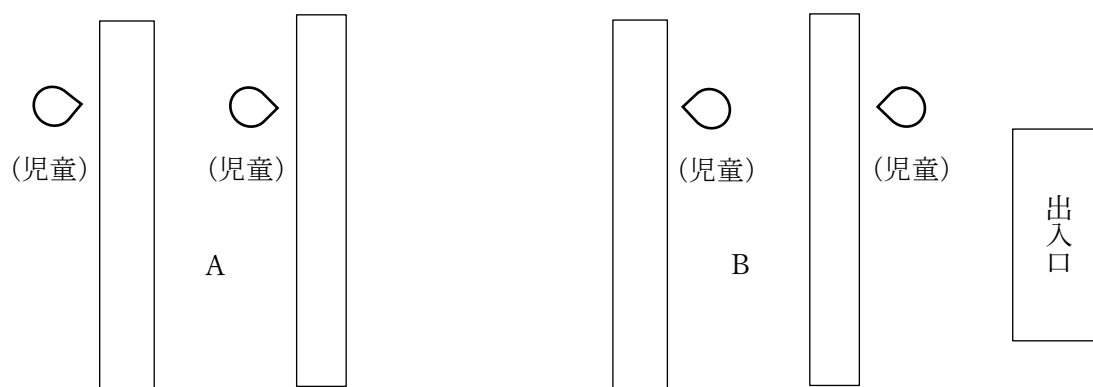
○友達の良い動きを見付けたり、動きのポイントを伝えたりしている。

（思考力・判断力・表現力等）

（2）本時の展開

	学習内容・学習活動	○指導上の留意点や配慮事項	評価規準
導入 7分	1 場の準備 2 集合、整列、挨拶 3 本時の見通し <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">バランス発明家になろう！</div> 4 準備運動 ・「ジャンボリミッキー」 5 補助運動	○服装など安全確認をする。 ○前時のよい学びを共有し、本時の学習に活かせるようにする。 ○親しみのある曲を用い、楽しく体を動かせるように、次の動きの声かけをする。	
展開 28分	6 体ほぐしの運動遊び ・「せーので立てるかな」 7 体のバランスをとる運動遊び ・「だるまさんがふーらふら」 8 発明タイム ・体(腰やお尻等)を使って発明するグループ赤と脚や手を使って発明するグループ白に分ける。 9 新しい遊び方の紹介 (児童又は担任) 10 発明タイム②	○人数や形(向かい合わせや背中合わせ)を変え、「挑戦したい」と思う工夫をする。 ○苦手感のある児童も参加できるよう、簡単な技を提示する。 ○新たなバランスの遊び方を見つけた児童を認める声掛けをする。 ○2名の教員がそれぞれグループに分かれることで、子供の遊び方をより細かく見取れるようにする。 ○提示された遊び方や他の遊び方を発展させた遊びに挑戦できるような声掛けをする。	ウー② イー③
まとめ 10分	11 振り返り ・遊び方について気付いたこと ・友達の良かったところ 12 整理運動 13 健康観察、挨拶 14 片付け	○気付いた児童も、良かったところとして取り上げられた児童も、認められた意識をもてるよう、褒めることで価値付ける。 ○次回への見通しをもつ。	

(3) 場の設定



(4) 授業観察の視点

- ・ T 1 二人制は、研究主題の手だてとして有効であったか。(個別最適・課題解決①)
- ・ 発明タイムは、子どもの対話を生み出し、遊び方をつくりだすことにつながっていたか。(対話・協働②)

第2学年学級活動（2）学習指導案

日 時 令和7年7月4日（金）
第5校時 13:25～14:10
学校名 日野市立平山小学校
対 象 2年2組 34名
会 場 2年2組 教室
授業者 T1 八木下紗耶（主任教諭）
T2 青木美香（栄養士）

1 題材名 「かむを学ぼう」

学級活動（2）エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

2 題材のねらい

かむことによる良い効果を知ること意識的によくかんで食べようとする気持ちをもつことができる。

3 題材について

（1）児童の実態

本学級の児童は、給食の時間をとても楽しみにしている。進級当初から「今日の給食は何かな。」「早く給食が食べたい。」とつぶやくなど楽しみにし、苦手な野菜も「これぐらいは食べてみる。」と挑戦しながら食べている様子が見られる。しかし、「今日のパン硬いかな。」「これ硬いんだよね。」と献立によっては、不安を訴える児童もいる。また、話すことに夢中になり、給食時間の終了間際に口一杯に頬張り、慌てて食べているために、しっかりかんで食べているとはいえない様子も見られる。

低学年の児童は歯の生え変わりの時期であることに加え、幼児期から食べやすい食感の食事に慣れているため、よくかむことへの意識が十分に育っていなかったり、硬い食感のものに対する不安感や苦手意識をもっていたりすると考えられる。本時では、かむことの大切さを知ること、よくかんで食べようとする児童の育成をねらいたい。

（2）題材設定の理由

本題材は、よくかむことは体に良い効果があると知ること、自分の食事の仕方を振り返り、よくかむために自分ができることを考え、望ましい食習慣につなげることをねらいとしている。

本題材では、学校栄養士と連携を図り、専門的な立場から「かむことの大切さ」を教えてもらうことによって、よくかむことが健康な体をつくることにつながることに気付かせたい。それにより、よくかむことの大切さを実感し、よくかんで食べようとする気持ちをもたせたい。

そして、事後の活動である給食の時間は、習慣化を図るための実践の場として、よくかんで食べるよう指導していきたい。

4 第1学年及び2学年の評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
自己の身の回りの諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、基本的な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の身の回りの諸課題を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、進んで課題解決に取り組み、他者と仲よくして人間関係を形成しようとしている。

5 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
学習者用端末でかむことについてのアンケートを実施する。	好きな給食の献立や苦手な給食の献立、かむことができていのかなどのアンケートに回答し、結果を共有することでかむことについて課題意識をもてるようにする。	アンケートの結果を聞き、かむことについて関心をもっている。(態度)【観察】

6 研究主題に迫る手だて

(1) 個別最適・課題解決

① アンケートによる自己の課題把握（課題をイラストとともに提示する視覚支援）

事前アンケートの結果に着目することで、自己の課題として問題を捉え、自己の食習慣を見つめられるようにする。また、課題をイラストともに大型モニターで提示する視覚支援をすることで、全ての児童が自己の課題を捉えられるようにする。

② 意思決定のためのワークシート

一人一人が自分にあった意思決定ができるようにするために、授業の終末で「自分のめあて」を書くことのできるワークシートを活用する。また、意思決定したことを継続的に実践できるようにするために、1週間程度振り返るようにする。

(2) 対話・協働

① 様々な考えに触れるためのペア学習

かむことの大切さを学習した後に自分たちの給食の食べ方を振り返る。そして、よくかんで食べるために食べ方や時間、食事の内容など、気を付けるとよいことについてペアで話し合い、学級全体で共有する。様々な考えに触れることで、自分のめあてを見付けられるようにする。

7 本時

(1) 本時の目標

かむことの大切さを知ること、よくかんで食べるための自分のめあてを決め、今後の食事実践しようとする。

(2) 本時の展開

	学習内容・学習活動	○指導上の留意点や配慮事項		評価規準
		T 1（学級担任）	T 2（栄養士）	
導入 つかむ 8分	1 給食の人気メニューの傾向から自分たちの普段のかみ方の実態を知る。 T みんなの好きな献立、苦手な献立はどんなものだったと思いますか。	○事前にアンケート入力で回答させる。 ○軟らかい食べ物を好む傾向であることに気付かせ、題材のねらいに迫るきっかけをつくる。		
	2 本時の課題をつかむ。 T 硬い食感の献立は苦手な人がいるから給食からなくしてもよいですか。 C ダメだよ！ C 栄養が… <div>なぜ、硬いものも食べる必要があるのだろう？</div>			
	3 本時のめあてを知る。			
	かむことの秘密を見付け、自分の食べ方を振り返ろう！			
		○かむことには秘密があることを提示する。		

<p>展開</p> <p>さぐる</p> <p>見付け</p> <p>ける</p> <p>27分</p>	<p>4 するめをよくかんで食べ、気付いたことをワークシートに書く。</p> <p>T 硬い食べ物をよくかんで食べたら体はどうなるのでしょうか。するめをよくかんで確かめてみましょう。</p> <p>C あごが疲れた。</p> <p>C あごや頬の周りが動いていた。</p> <p>C かんでいたら軟らかくなった。</p> <p>C かんだら味が濃くなって、ずっとかんでいたら味が薄くなった。</p> <p>C 唾がたくさん出た。</p> <p>5 よくかんで食べることの大切さを栄養士から聞く。</p> <p>T するめをよくかんで体に起こったことには理由があるのでしょうか。</p> <div data-bbox="209 1435 553 1603" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>硬いものをよくかんで食べることで、体によいことがたくさんある</p> </div>	<p>○かみながら体の動いている場所、唾液の量、味の変化に着目して書けるようなワークシートにする。</p> <p>○するめをよくかんで気付いたことを4つの観点に分けて板書しておき、栄養士のよくかむことの大切さの指導と結び付けていく。</p>	<p>○体の動いている場所を確かめている様子や、唾液の量など児童の反応を観察しておく。</p> <p>○よくかんで食べることの大切さについて説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳の活性化 ・消化促進 ・味覚促進 ・虫歯予防 <p>○かむ力を育むことを意識した給食の献立を紹介する。</p>	
--	---	---	---	--

	<p>6 よくかんで食べるためにどうしたらよいのか話し合い、発表する。</p> <p>Tあまりかむことができていないのには理由があるようですね。しっかりかむためにはどんな工夫ができるのか話し合いましょう。</p> <p>Cもぐもぐタイムによくかめばいいんじゃない。</p> <p>C硬いもののときには、30回かむのはどう？</p> <p>C食べる時間を長くするには、準備を早くすればいいね。</p> <p>C硬そうなものでも挑戦してよくかんで食べるといいね。</p>	<p>○事前アンケートから普段あまりかんでいない人の理由を挙げて、食べ方や時間、食事の内容について考えられるようにする。</p>		
<p>まとめ</p> <p>10分</p> <p>きめる</p>	<p>7 これからの食べ方について自分のめあてを決める。</p> <p>T自分の食べ方を振り返って、これからの食べ方についてめあてを書いてみましょう。</p> <p>T書いためあてを発表しましょう。</p> <p>Cもぐもぐタイムは、食べることに集中してよくかみます。</p> <p>C硬いものは30回かんで食べます。</p> <p>C食べる時間が長くなるように、準備を早くします。</p>	<p>○話合いで出た意見の中から自分のめあてを決めて給食を食べ、一週間給食後に振り返ることを伝える。</p>		<p>○よくかんで食べるための自身のめあてを決め、今後の食事実践しようとしている。(態度)</p> <p>【ワークシート】</p>

(3) 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	評価方法
毎日の給食後に、自分が立てためあてや取組について振り返る。	給食前に取組を意識できるように声掛けをする。	よくかんで食べるための自身のめあてに、進んで取り組んでいる。(思考・判断・表現) 【ワークシート・観察】

(4) 授業観察の視点

- ・よくかんで食べるために食べ方や時間、食事の内容など、気を付けるとよいことについてペアで話し合い、学級全体で共有することで、様々な考えに触れることができたか。(対話・協働①)
- ・ペアで話し合った意見を学級全体で共有することで、自分のめあてを設定することにつながったか。(個別最適・課題解決②)

(5) 板書計画

すきな人がおい きゅうしょく ・○○ ・○○	かむことのひみつを見つけて、じぶんの食べ方をふりかえろう！			
やわらかいものが多い にがてな人がおい きゅうしょく ・○○ ・○○	・かんでいると あじがこくなった	・つばがたくさん出た	・やわらかくなった	・あごがつかれた ・あごやほほのまわり がうごいていた
硬いものが多い なぜ、かたいものも 食べるひつようが あるのだろう？	あじがよくわかる (イラスト)	むしばのよぼう (イラスト)	えいようになりやすい (イラスト)	のうのはたらきがよくなる (イラスト)
かたいものをよくかんでたべることで、体によいことがたくさんある				
よくかむために できることは？ ・○○○○ ・○○○○ ・○○○○				

第3学年学級活動（2）学習指導案

日 時 令和7年6月25日（水）
第5校時 13:25～14:10
学校名 日野市立平山小学校
対 象 3 年 3 組 28名
会 場 3 年 3 組 教 室
授業者 T1 片山知子（主任教諭）
T2 青木美香（栄養士）

1 題材名 「パワーいっぱい！！朝ごはん」

学級活動（2）エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

2 題材のねらい

朝ごはんの大切さを知り、リズムある生活をしようとする。

3 題材について

（1）児童の実態

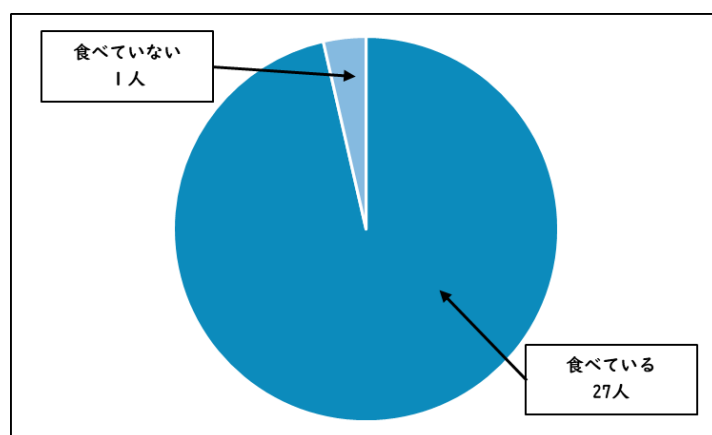
3年3組は、外で遊ぶのを好む児童と、教室でゆったり過ごすことを好む児童が半数ずついる。学習に関しては、前向きに取り組み、家庭学習も意欲的な児童がほとんどである。給食時は、好き嫌いをすることはあっても、食べる量が極端に少ない児童はおらず、全体的によく食べる印象がある。食への興味はあるようで、学級全体で給食を毎日楽しみにしている。

【朝食についてのアンケート】

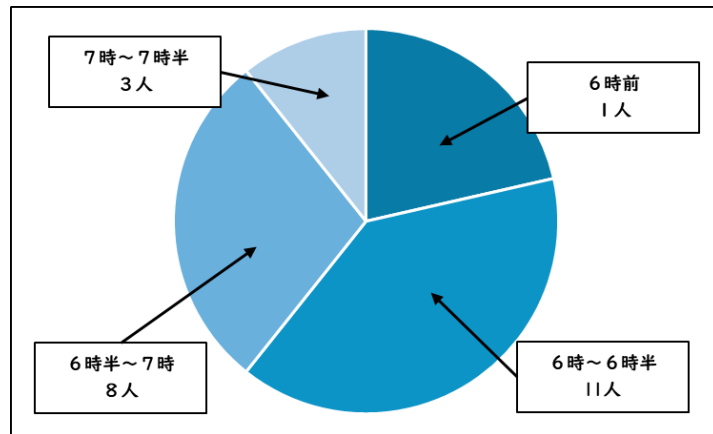
調査方法：選択式・記述式アンケート 調査時期：令和7年6月

調査対象：3年3組28名

① 朝ごはんを毎日食べていますか。

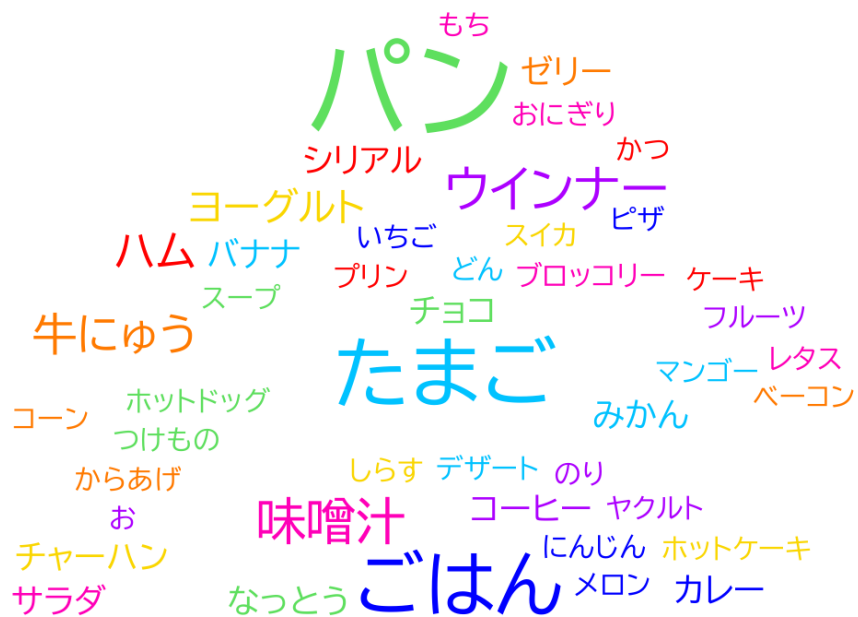


② 何時に起きていますか。



③ 朝ごはんのメニューはどんなものですか。

※回答が多いものほど大きく表示されている。



【分析・考察】

①では、28名中27名が「朝ごはんを毎日食べている」と回答した。1名は、「時々食べない日がある」と回答した。②の起床時間に関しては、7時までに起きる児童がほとんどで、「7時～7時半」と回答した児童が3名いた。記述式のアンケート「朝食のメニュー」に関しては、多様なメニューを回答する児童と、「パン」、「ごはん」と、主食のみを回答する児童がいた。

以上のアンケート結果により、本学級の児童は、朝食は摂取しているが、バランスよく摂取することへの意識に差があることが予想される。

(2) 題材設定の理由

本学級の児童は、朝食をしっかりとっている児童がほとんどである。しかし、一部の児童は欠食があったり、とっていても主食のみだったりと偏りが見られる。

心身のよりよい発育・発達には、1日3回の栄養バランスのとれた食事をとることが大切であり、その一つである朝食は、1日の活動を行うために欠かせない重要な役割を担っている。

しかし、近年、朝食欠食が問題視されており、それが学力、体力の低下につながっていると懸念されている。朝食をとる重要性は明らかだが、学年が上がるにつれ、夜型の生活リズムになり、朝食欠食につながり、さらに、学力低下や体力低下を引き起こす原因となる。第3学年という今の発達段階で、朝食をとる重要性を考え、そのよさを知ることが児童の今後の生活を豊かにすると考える。

また、朝食に関しては、家庭環境が大きく影響し、学校が介入しにくい部分が多くある。だからこそ児童が自分で栄養バランスの大切さに気付き、できることを考えられるようにしたい。そこで普段から冷蔵庫にありそうな食品を使って自分でバランスのよい朝食を考えさせる。家庭で出される朝食のメニューに興味をもたせることで、無理のない範囲で食品を取り入れる等意欲を高めさせたい。そのために、まずは「朝食をとること」、そして「バランスのよさ」にも意識を向けられるようになってほしい。

4 第3学年及び第4学年の評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をより よくしていこうとする態度
日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、その為に必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題に気付き、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、意欲的に課題解決に取り組み、他者と協力し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

5 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
アンケートに記入する。	朝食についてどのような頻度で、どのようなものを食べているか考えさせる。	アンケートを記入し、これまでの朝食のとり方について考えることができる。(思考・判断・表現) 【アンケート】

6 研究主題に迫る手だて

(1) 個別最適・課題解決

① 事前アンケートを用いた導入

キーワード集計を活用し、朝食についての事前アンケートをとった。アンケート結果を視覚的に分かりやすく共有することで、児童の問題意識を高め、朝食の内容や食品の特徴を考えたり、自己の食生活を見つめたりするきっかけとし、授業の導入時に関心を高めることをねらいとした。

② 食品カードを用いた「さぐる」活動

一人一人が自分にあった様々な決定ができるよう、授業の「さぐる」段階で多様な食品カードを活用する。食品カードは朝食に簡単に付け加えることのできるものにし、それを選ぶことで児童の「朝ごはん」への関心を高める。食品カードを3つに分類する活動を通して、様々な気づきを促すと同時に、いろいろな考え方に触れることで、食品を選ぶことの楽しさも味わわせる。また「決める」段階では、学習を通して気づき、意思決定したことを継続的に実践できるように、ワークシートを活用し1週間程度振り返ることができるよう工夫する。

(2) 対話・協働

① 選んだ食品についての話し合い

食品の働きや朝ごはんの3つのパワーを押さえ、「見付ける」段階で朝食の組み合わせをペアで考えさせる。その後、選んだ食品の理由を話し合う活動を設定することで、自己の朝食をよりよくするための様々な考え方に触れさせ、視野を広げさせる。本時の「決める」の段階では、今後の自身の「朝ごはん」の取り方について児童一人一人が考え、それぞれの具体的な実践目標をもち、実現を目指せるようにする。

7 本時

(1) 本時の目標

朝ごはんの大切さを知って、リズムある生活をしようとする。

(2) 本時の展開

	学習内容・学習活動	○指導上の留意点や配慮事項		評価規準
		T 1 (学級担任)	T 2 (栄養士)	
導入 5分 つかむ	<p>1 アンケート結果(学級)を見て、気付いたことを話し合う。</p> <p>T どんなことが分かりますか。</p> <p>C 毎日朝ごはんを食べている人が多い。</p> <p>C 6時から7時の間くらいに起きている人が多い。</p> <p>C ごはんが多い。</p> <p>2 「先生の朝ごはん」を見て、問題点を話し合う。 (パンとコーヒー)</p> <p>T この朝ごはんを見て、どう思いますか。</p> <p>C バランスがよくない</p>	<p>○個人が分からないよう配慮する。</p> <p>○端末を活用し視覚的に分かりやすくする。</p>		
	自分でできる朝ごはんのとり方について考えよう。			
展開 30分 さぐる 見	<p>3 朝食をとっている日と、とっていない日の違いや生活リズムを振り返る。</p> <p>4 朝食の役割を知る。「朝ごはんがつくる3つのパワー」</p>	<p>○朝食をとらないと1日を気持ちよく過ごせないことに気付かせる。</p> <p>○朝食をとるために、早寝・早起きのリズムが大事であることも振り返ることができるようにする。</p>	<p>○『3つのパワー』がそろると、バランスがよい食事になる。」という</p>	

付 け る	<ul style="list-style-type: none"> ・頭バッチリ ・体シャッキリ ・おなかスッキリ 		ことを押さえる。	
	<p>5 バランスのよさについて考える。</p> <p>・朝食のメニューになりそうな食品を3つのパワーに分ける。</p>	<p>○発達段階に合わせて、3色食品群までは押さえないようにする。</p> <p>○ペアでカードを操作しながら話し合えるようにする。</p> <p>○一人でも無理なく選べる食品にしばってカードを作成する。</p>	○「3つのパワー」について分かりやすくするために、食品カードを動かしながら例を挙げる。	
	<p>6 「先生の朝ごはん」をよりよいものにするためにどんな食品を入れるのか考える。</p>	○選んだ理由を聞き出しながら、いくつかのペアに発表させる。		○3つのパワーのバランスを考えて食品を選んでいる。(知識・技能)
	<p>7 「自分の朝ごはん」を考える。</p>	○普段の家庭環境からかけ離れないように、無理のないメニューを考えさせるようにする。	○選んだ理由が3つのパワーのバランスに沿っていることを価値付け、声かけをする。	【発言、観察】
ま と め 10 分 決 め る	<p>8 朝食をとるために、自分ができるところを考え、「めあて」を決める。</p>	<p>○自分自身でできる無理のない範囲でのめあてを決めさせる。</p> <p>○食事時間確保のための生活時間の見直しでもよいことにする。</p> <p>○決めたことを発表させ、実践への意欲を高めさせる。</p>	<p>○朝食をバランスよくとるよさに加えて、「食べること」が何より大事だと伝える。</p> <p>○栄養士からの活動への意欲付けの話をを行う。</p>	<p>○自分の課題に合った具体的なめあてを決めている。(思考・判断・表現)</p> <p>【学習カード、観察、発言】</p>

(3) 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	評価方法
自分が立てためあてや取組などについて振り返る。	家庭環境に配慮し、できた、できないではなく、意識できたかで価値付けるようにする。 朝食の3つのパワーについて、意識できるよう言葉掛けをする。	自分の課題に合った具体的なめあてや実践方法に、すすんで取り組んでいる。(態度) 【めあてカード・観察】

(4) 授業観察の視点

- ・食品カードを3つに分けたり、食品を選んだりする活動を通して、栄養バランスの大切さに気づき、朝食に興味をもつことができたか。(個別最適・課題解決②)
- ・ペアとの活動を通して、3つのパワーの大切さを知り、自分の課題に合った具体的な実践目標をもつことにつながったか。(対話・協働①)

(5) 板書計画

パワーいっぱい！！
朝ごはん

自分でできる朝ごはんのとり方について考えよう。

朝ごはんの3つのパワー

体シャッキリ

頭スッキリ

おなかスッキリ

先生の朝ごはん

(みんなが考えた朝食)

※食品カードをはる。

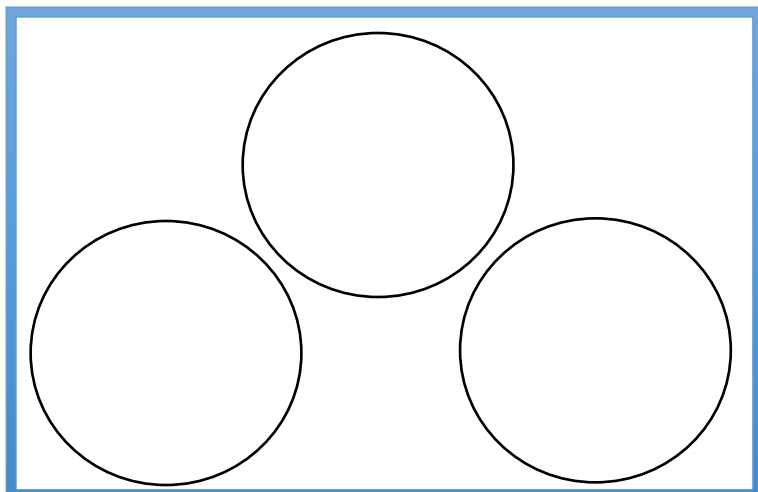
パワーいっぱい!! 朝ごはん

3年

組 (

)

1. 「自分の朝ごはん」を作ってみよう。

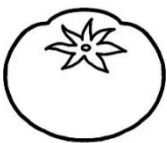
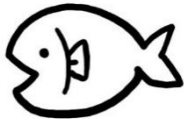
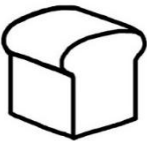




りゅう

2. 朝ごはんで パワーいっぱいになるために、がんばることを 決めよう。



3. 決めたことができた日は、○をつけよう。

6月26日(木)	6月27日(金)	6月30日(月)	7月1日(火)	7月2日(水)
				

4. ふりかえり

.....

.....

第4学年体育科学習指導案

日 時 令和7年5月28日（水）
 第5校時13:25～14:10
 学校名 日野市立平山小学校
 対 象 4 年 2 組 28名
 会 場 体育館
 授業者 高野万希（主任教諭）

1 単元名 「マット運動」

B 器械運動 ア マット運動

2 単元の目標

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
マット運動の行い方を知るとともに、回転系や巧技系の基本的な技を行うことができるようにする。	自己の能力に適した課題を見付けたり、技ができるようになるための活動を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。	運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①マット運動のきまりや場や用具の使い方、場の安全の確保などについて言ったり、書いたりしている。 ②マット運動の行い方について言ったり書いたりしている。 ③自己の能力に適した回転系、巧技系の基本的な技ができる。	①自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための活動を選んでいる。 ②課題の解決のために考えたことを友達に伝たり、仲間の考えを聞いたりしている。	①運動に進んで取り組もうとしている。 ②順番やきまりを守り、だれとでも仲よく励まし合おうとしている。 ③場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。 ④友達の考えを認めようとしている。 ⑤器械・器具の安全や試技の開始前の安全を確かめている。

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年3月告示）体育 第3学年及び4学年 B器械運動

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その技を身に付けること。
- ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的技をすること
- (2) 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。

を受けて設定した。また、小学校学習指導要領体育編（平成29年7月）の内容を踏まえ、本単元における児童に味わわせたい運動の特性を以下にまとめた。

○一般的特性

- ・体の回転や倒立など、日常生活では通常行われない動きを含んだ運動ができる運動領域である。

○児童から見た特性

- ・自己の能力に応じた回転系、巧技系の技に挑戦し、個々の技やこれらの組み合わせが円滑にできるようになるところに、楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

(2) 児童観

ア 教師から見た実態

本学級の児童は、中休みに外遊びを進んで行う児童とそうでない児童の二極化傾向にある。クラス遊びで鬼遊びを行ったとき、「もっとやりたい」、「もっと走りたい」といった体力が持続する児童と、体力がもたず「疲れた」、「もう走れない」といった児童がいた。クラス全体で行う遊びは楽しんで行える半面、体力面に課題が見られる。また、体づくり運動を行った時に、経験のない動きに対して体の使い方や動かし方が分からない児童もいた。本単元は、日常生活では通常行われない動きを含んだ運動であり、調整力、筋力、柔軟性が関わる運動領域である。非日常的な運動の仕方を学習し、主運動につながる技ができるようになる楽しさや喜びを味わわせたい。

イ 実態調査

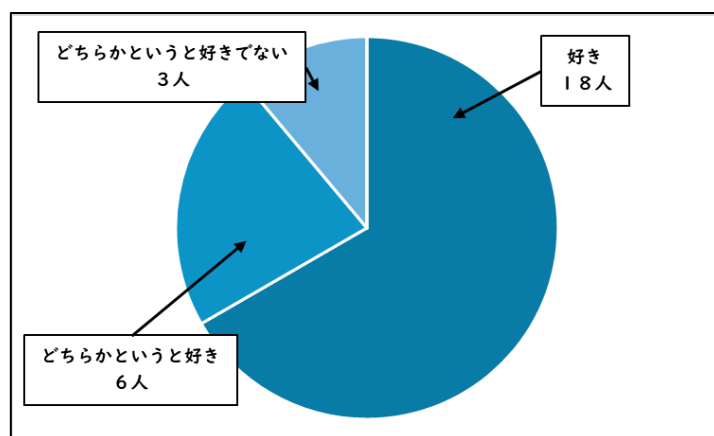
調査方法：選択式アンケート 調査時期：令和7年4月

調査対象：4年2組28名 未回答児童1名

① 体育は好きですか。

好き・・・18人 どちらかというが好き・・・6人

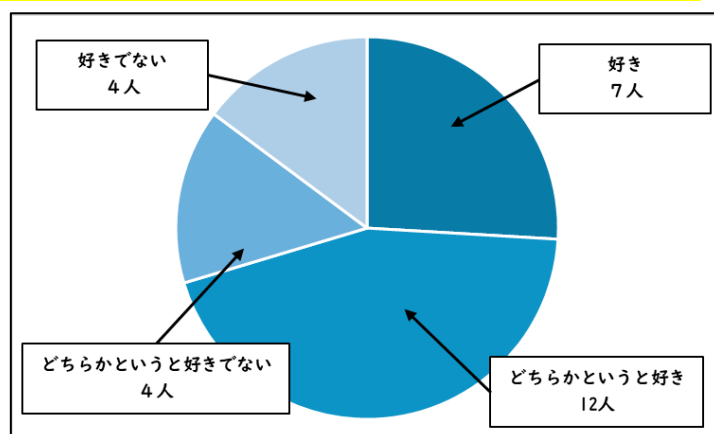
どちらかというが好きでない・・・3人 好きでない・・・0人



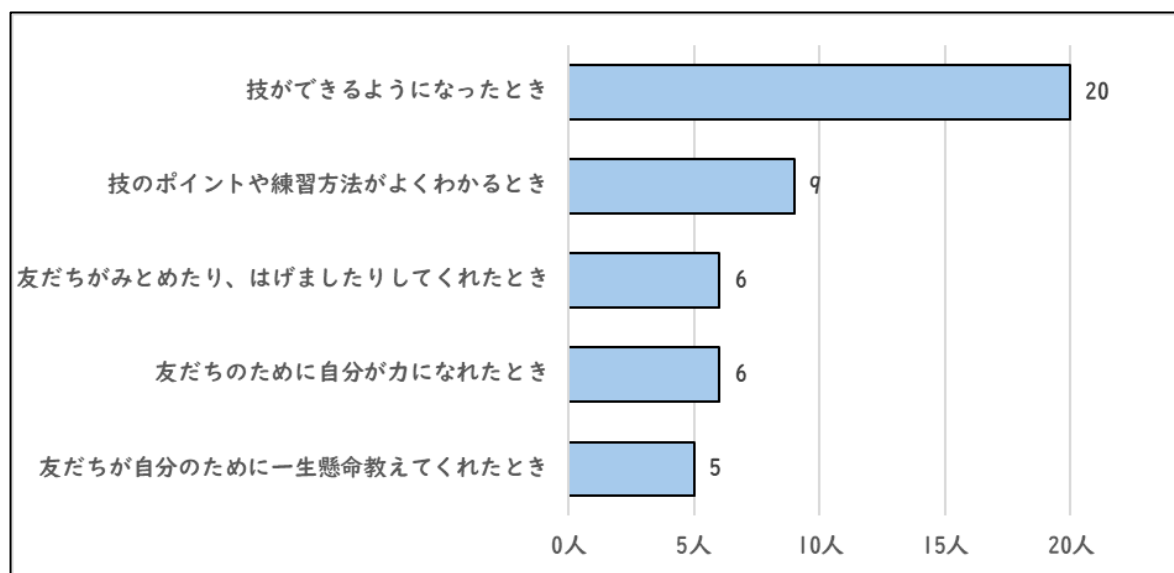
② マット運動は好きですか。

好き・・・7人 どちらかというが好き・・・12人

どちらかというが好きでない・・・4人 好きでない・・・4人



③ マット運動の学習が「楽しい」「嬉しい」と思うのはどのようなときですか。



ウ 分析・考察

①②の結果の比較から、体育の学習について9割近くの児童が好意的に捉えていることが分かる。一方でマット運動の学習については「好き」「どちらかというと好き」が約7割で、マット運動に対して否定的に捉えている児童がいることも分かった。③の結果を見ると、技ができるようになったり、技のポイントが分かったりするときに、運動の楽しさや喜びにつながる傾向が見られる。また、「友だちがみとめたり、はげましたりしてくれたとき」等、他者との関わりの中で「楽しい」「嬉しい」と感じている児童は2割に留まっている。このことから、友達と共に学ぶ楽しさを十分に味わえていないことが分かる。できるようになるポイントを見付けながら、自身の成長を実感できる活動や、他者と関わり合う楽しさに気づき、安全と感じられる環境の中で互いに学び合いながら学習を進めることができるようにしていきたい。

(3) 教材観

器械運動系領域で取り上げる技は、非日常の動きであり、「面白そうだ」や「怖いな」など、技に対する感情は児童によって様々である。中学年における器械運動は、「器械・器具を使った運動遊び」から「器械運動」になり、「運動遊び」に取り組む楽しさを味わう学習から、技の習得に向けた課題解決型学習に入る。そこで、中学年の児童に指導を始める際、「楽しく運動遊びをしていたら技ができるようになった」ということを大切にしたいと考えた。

本単元では、授業の前半に必ず感覚づくりの運動の時間を設け、色々な身体の動かし方を行うことで運動感覚を向上させ、児童のそれぞれの課題解決に役立てるようにする。また、技ができることに焦点を当てるのではなく「わかる」ポイントを見付けていくことを価値付け、グループで協力して運動することの楽しさや喜びを味わわせたい。

5 研究主題に迫る手だて

(1) 個別最適・課題解決

① 場の設定

マット運動は、技能面での個人差が激しいことや児童が苦手意識を覚えやすいことから、より安心して、「面白そう」「やってみたい」といった場の設定が有効だと考えた。そこで、マットを坂道にしたりマットに線を引いたり、ケンステップやゴムを場の準備に取り入れる。それぞれの課題の把握や目標設定を立てられるようスキルアップタイムを導入することで、マット運動が苦手な児童も各自の目標を設定でき、その目標達成に向けて活動できるようにする。また、マット運動が得意な児童は発展技にも取り組めるように、場の工夫をして取り組めるようにする。

② 見る視点の焦点化と「技のアップデート」の共有

クラスの実態や発達段階を考慮し、始めから課題を見付け、それに向けて話をしようとしても、友達の技を見る視点や観点が分からず、結局何も分からずに終わってしまったということが予想される。そこで、お手本動画を活用し、上手にできるようになったポイントを見付けていく。その活動から見付けたそれぞれのポイントを「技のアップデート」と称して共有することで、技のポイントをみんなで見付けていく。「技のアップデート」を共有する時間を重ねることで、一人一人がもつ課題の解決にもつなげていきたい。また、単元の終わりに自分ができるようになったことや伸びを振り返られるように学習カードにまとめていく。

(2) 対話・協働

① 教師との対話による協働的な学びの活性化

伝えたいことはあるのに話をまとめられなかったり、伝えたいことをうまく言葉にできなかったりすることで、本当に大事なポイントや話の中身が伝わりきらないことがある。そこで、教師が必要に応じて間に入り、話を整理したり、要点を分かりやすく言い換えたり、時には問い返したりすることでさらに対話的・協働的な学習を促し、深い学びにつなげていく。

② グループ活動の工夫

後半のチャレンジタイムで、グループごとに技ができるためのポイントを見付ける活動に取り組む。運動が得意な人もそうでない人も友達にアドバイスとして伝えることで、自分の技のやり方を見つめることにつながる。また、得意ではない人も、上達のために友達から学ぶことができるようになることをねらいとする。技が「できる・できない」に焦点を当てるのではなく、できるためのポイントを見付けていく対話を価値付けていく。対話、協働を繰り返した結果、技ができるようになるような流れにしていく。

6 単元の指導計画と評価計画（全7時間）

時間		1	2	3	4（本時）	5	6	7
問題解決の流れ		つかむ	広げる					まとめる
ねらい		学習の仕方を理解し、 学習への見通しをもつ。	課題の解決のために自分の考えを伝えたり、仲間の考えを聞いたりする。					できるようになった技を記録し、単元の始めと終わりの自分の成長を実感する。
主な 学習活動		1 集合・整列・挨拶 2 場の準備 3 本時の見通し 4 準備運動・共に学ぶ感覚づくりの運動						
		5 自分の課題を知る ○4つの技のグループの基本技や発展技があることを知る。 ○自己の能力に適した技を選んで行う。 6 場の片付け 7 整理運動 8 学習の振り返り	5 スキルアップタイム ○自己の課題の把握、目標設定をする。 ○自己の課題に応じた場で練習をする。 6 チャレンジタイム ○対話を通して、課題解決のためのポイントを見付ける。 ○技のアップデートのためのポイントについて共有する。 7 アップデートタイム ○見付けたポイントを意識してもう一度技に取り組む。 ○新しい技に挑戦し、次の課題を見付ける。 8 整理運動 9 学習の振り返り					5 チャレンジタイム ○4つのグループから自分が取り組みたいグループや技、場を選んで取り組む。 ○学習を通して、自己の学習成果や見付けたことを伝え合う。 6 整理運動 7 学習の振り返り
評価 （方法）	ア 知・技	①				②		③
	イ 思・判・表				①		②	
	ウ 主	③	④	②	①	⑤		

7 本時（全7時間中4時間目）

（1）本時の目標

◎課題の解決のために自分の考えを伝えたり、仲間の考えを聞いたりしている。

（思考力、判断力、表現力等）

○順番やきまりを守り、だれとでも仲よく励まし合おうとしている。

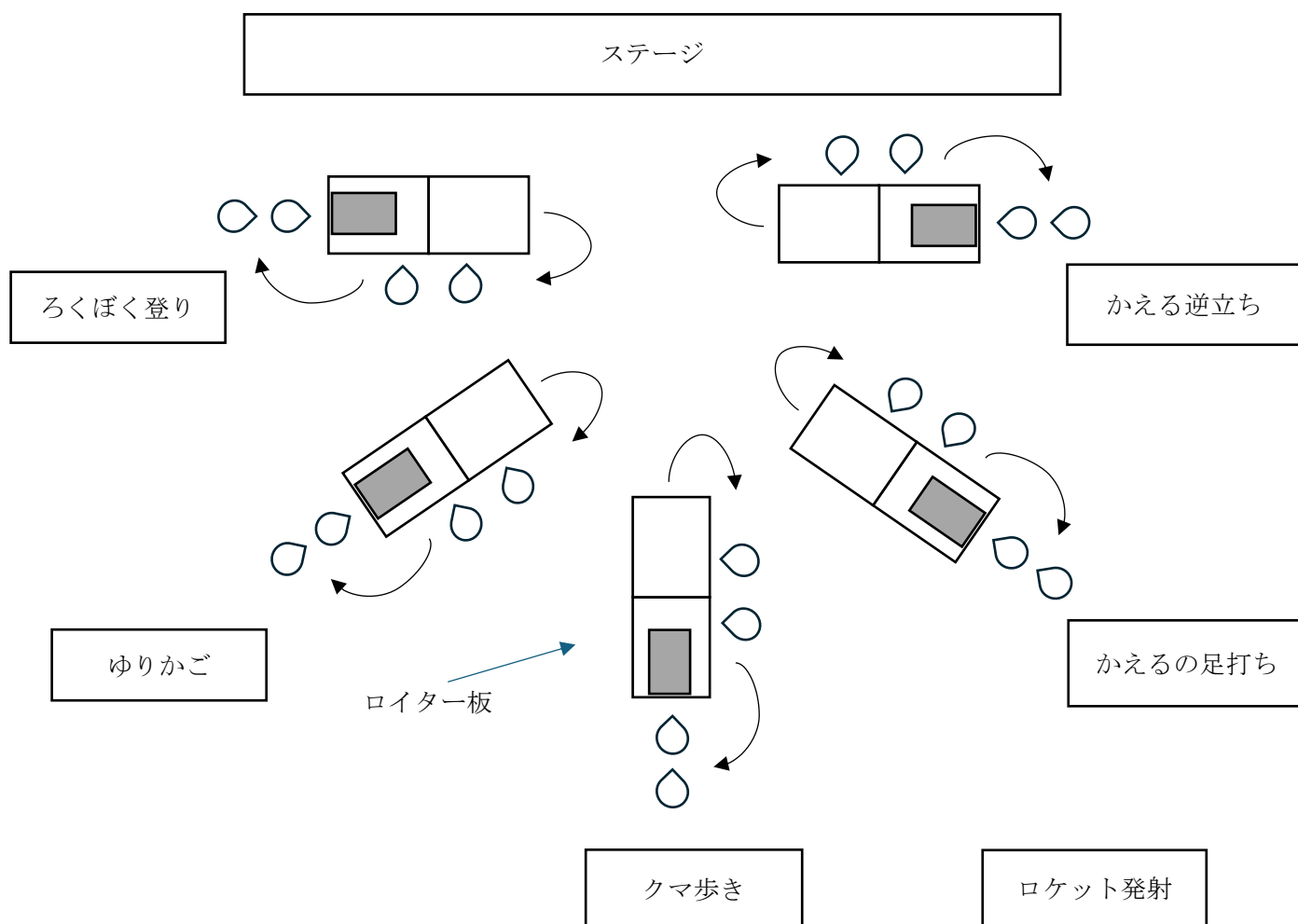
（学びに向かう力、人間性等）

（2）本時の展開

	学習内容・学習活動	○指導上の留意点と配慮事項	評価規準
導入 7分	1 場や用具の準備	○場の図面を視覚的に示し、児童が自分たちで準備がしやすいようにする。 ○マットや器具を安全に運ぶための持ち方やきまりを事前に確認することで、安全面に気を配れるようにする。	
	2 集合、整列、挨拶 3 本時の見通し	○服装など安全確認をする。 ○前時のよい学びを共有し、本時の学習に活かせるようにする。	
	「技のアップデート」のためのポイントを見付け、グループで伝え合おう。		
	4 感覚づくりの運動 ・クマ歩き、ロケット発射 ・カエルの足打ち・逆立ち ・ゆりかご ・肋木のぼり	○各場所を回り、必要に応じて各運動のねらいに沿った動きができるようにする。	
展開 28分	5 スキルアップタイム ・自分の課題の把握、目標設定	○ポイントを見付けやすいように、手本となる動画を流し、自分達の技と比較しながら取り組めるようにする。 ○これまでの技のポイントを生かせるように、前時の板書を掲示し、いつでも見返せるようにする。	ウー①

	<p>6 チャレンジタイム</p> <p>・どの技にチャレンジしたいか友達に伝える。</p> <p>7 見付けたコツの発表</p> <p>8 アップデートタイム</p>	<p>○自分や友達の課題解決に向けて行動し、上達している児童やチームを称賛し、全体に共有し、広げていく。</p> <p>○各グループから出たことを板書し、共有する。</p> <p>○見付けたコツを意識したり、上達したりしている児童を称賛し、価値付ける。</p>	イー①
<p>まとめ 10分</p> <p>10 振り返り</p> <p>11 整理運動、整列、挨拶</p>	<p>9 場や用具の片付け</p>	<p>○安全面に気を配りながらできるように、友達と声をかけるよう促す。</p> <p>○運動で使った部位をほぐす。</p> <p>○けがの有無を確認する。</p>	

(3) 場の設定



(4) 授業観察の視点

- ・今回の場の設定は、児童一人一人の課題解決に有効であったか。(個別最適・課題解決①)
- ・チャレンジタイムでのグループ活動は、対話を生み出し児童の課題解決につながる手立てになっていたか。(対話・協働②)

(5) 授業で使用了資料について

- ・本校職員によるお手本動画
- ・マット運動技のポイントカード

第5学年学級活動（2）学習指導案

日 時 令和7年10月3日（金）
第5校時 13:25～14:10
学校名 日野市立平山小学校
対 象 5年3組 29名
会 場 5年3組 教室
授業者 T1 夏苺桃佳 （教諭）
T2 田原なつみ（主任・養護教諭）

1 題材名 「自分の目を守るためにできることを考えよう」

学級活動（2）ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 題材のねらい

目の構造や働き、目の健康を守るための正しい生活習慣について理解し、それらをもとに目を大切に
するための基本的な知識や技能を身に付け、日常生活の中ですすんで実践しようとすることができる
ようにする。

3 題材について

（1）児童の実態

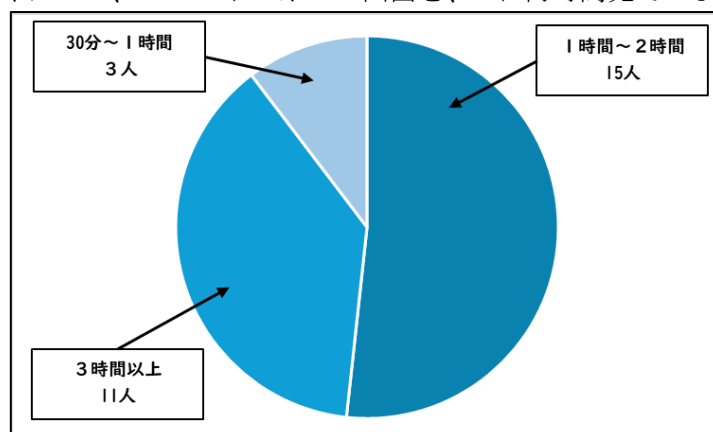
本学級は4月にクラス替えを行った学級である。（男子15名女子14名）。元気があり、活発な児童が多く、にぎやかな学級である。授業では、学習者用端末を用いて活動する時間が多く、児童も積極的に活用している。特に係活動や委員会活動などで使用している様子が見られる。児童が学習以外でも学習者用端末を使う場面は多くあるため、家庭だけでなく学校でも画面を見る時間は増えてきている。

【目の健康に関するアンケート】

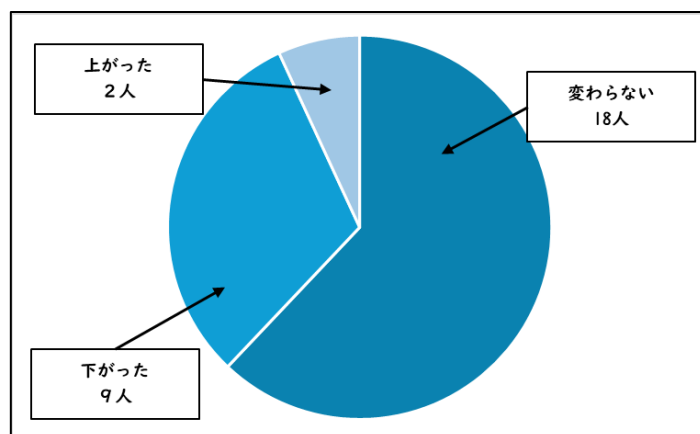
調査方法：選択式・記述式アンケート入力 調査時期：令和7年8月

調査対象：5年3組29名

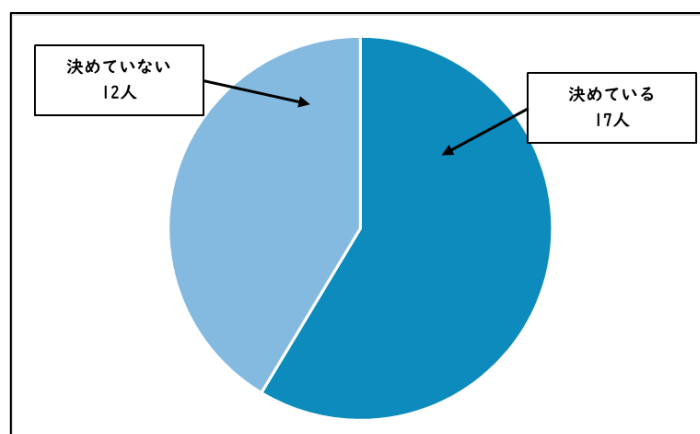
① タブレットやテレビ、スマートフォンの画面を、1日何時間見ていますか。



② 1年生のころに比べて視力はどう変化していますか。



③ タブレットやテレビ、スマートフォンの画面を見るときのルールはお家で決めていますか。



【分析・考察】

目の健康に関して、児童の状況を知るために、アンケート作成ツールを活用し、アンケートを行った。アンケートは、「①タブレットやテレビ、スマートフォンの画面を、1日何時間見ていますか。」、「②1年生のころに比べて視力はどう変化していますか。」、「③タブレットやテレビ、スマートフォンの画面を見るときのルールはお家で決めていますか。」、「④それはどんなルールですか。」（記述形式）の4項目である。

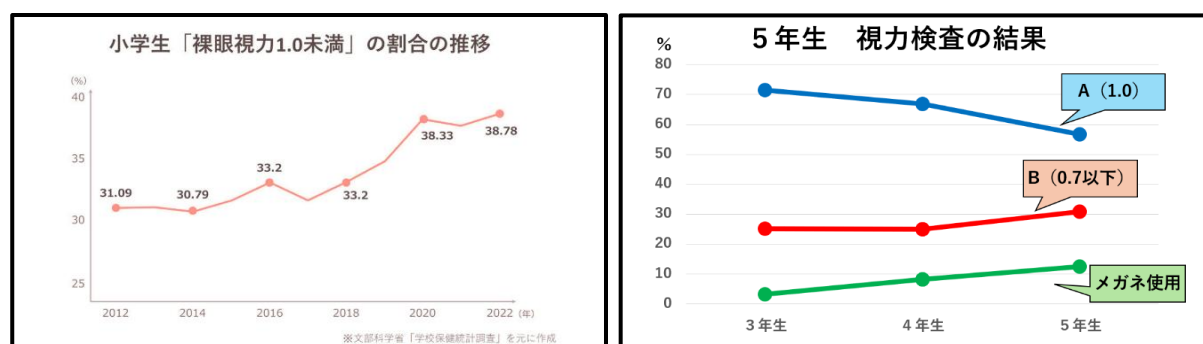
①の画面を見ている時間については、「全く見ていない」と回答した児童はいなかった。最も多かったのは「1時間～2時間」で、15人であった。②の視力の変化に関しては、「変わらない」と回答した児童が多く、現在、視力低下で困り感をもつ児童は少ないことが分かった。③の画面を見るときの家でのルールに関しては、「決めている」と回答した児童が半数以上おり、そのルールは、「ゲームは1日1時間以内」、「午後8時から使ってはいけない」など画面を見る時間にも関係するルールが多い印象にある。

【視力の実態】

2022年の学校保健統計調査のグラフを見ると、裸眼視力1.0未満の小学生の割合は年々増加傾向にあることから、子供の近視は低年齢化が進んでいると言える。

本学年児童の第3学年から第5学年までの視力の推移を見ると、視力1.0未満の者が第3学年で23%、第4学年で37%、第5学年で43%となっている。またメガネ使用者は、第3学年で3%、第4学年で8%、第5学年で12%となっている。

近年の近視の児童増加を鑑みると、今は視力がよい児童も、これからの生活の仕方によって視力が低下することも考えられる。本学級の児童が、自分の目の大切さに気付き、その健康を保つための生活の仕方について知ることが重要だと考える。



(2) 題材設定の理由

現代の子供たちは、スマートフォンやゲーム、学習者用端末など電子機器に触れる機会が増え、目に負担がかかりやすい環境にある。目の疲れから来る近視（視力低下）の症状も小学生の段階から見られるようになってきている。

本単元では、目の構造や働き、目を守るための生活習慣について正しい知識を身に付け、自分自身の生活を見直す視点を育てていく。児童が自分の生活習慣と目の健康の関わりに気付き、将来にわたって自分の健康を守る意識をもつことをねらいとする。

さらに、友達と意見を交流しながら、自分に合った目の健康を守る工夫を考え、日常生活の中で実践しようとする力を育てていきたい。

4 第5学年及び第6学年の評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
①日常生活への自己の適応に関する諸問題の改善に向けて取り組むことの意義を理解している。 ②健全な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	①日常生活への自己の適応に関する諸問題を認識し、解決方法などについて話し合っている。 ②自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	①自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしている。 ②自主的に課題解決に取り組み、他者と信頼し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

5 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
アンケートに記入する。	タブレットやテレビ、スマートフォンの画面を見ている時間について考えるように知らせる。	アンケートを記入し、これまでの自分の生活について振り返り、目の健康について課題意識をもつことができる。(思考・判断・表現) 【アンケート・発言】

6 研究主題に迫る手だて

(1) 個別最適・課題解決

① 児童の実態に合わせた授業にするための事前アンケート

タブレットやテレビ、スマートフォンの画面を見ている時間について、事前に学級でアンケートをとる。アンケート結果を見ながら養護教諭と対話をし、画面を見ている時間だけでなく、姿勢や画面との距離にも課題があることに着目させる。アンケート結果を通して、自分の生活を振り返り、自分自身の課題に合わせためあてを決め、目の健康に意識を向けながら生活していけるようにする。

(2) 対話・協働

① 考えためあてについてトリオでアドバイスし合う時間

まず授業における「つかむ」の段階で、養護教諭の話を聞いて視力低下の原因を押さえる。次に「見付ける」の段階で、養護教諭と対話をしながら視力低下の原因について考え、課題意識をもたせる。養護教諭との対話から、自己の目の健康を守るための様々な考え方に触れさせ、視野を広げさせる。また、児童から出た視力低下の原因については板書して残すことで、原因から自分の生活上の課題を見付けられるようにする。本時の「決める」の段階では、今後の自身の目の健康を守るための工夫について児童一人一人が考え、それぞれの具体的な実践目標をもち、実現を目指せるようにする。

7 本時

(1) 本時の目標

目の健康を守るための工夫を知り、自分の生活を見直す。

(2) 本時の展開

	学習内容・学習活動	○指導上の留意点や配慮事項		評価規準
		T 1 (学級担任)	T 2 (養護教諭)	
導入 つかむ 7分	<p>1 自分たちの第3学年から第5学年までの視力検査結果の推移のグラフと、小学生「裸眼視力1.0未満」の割合の推移のグラフを見て気付いたことを話し合う。</p> <p>T視力検査の結果を見て、気付いたことはありますか。</p> <p>C学年が上がるにつれて平均視力が下がっている。</p> <p>C〇年生から〇年生にかけて視力が大きく低下している。</p> <p>T自分の目はどうやって守っていけばいいのか、考えていきましょう。</p>	<p>○アンケート②の「視力の変化」についての結果を提示した後、自分たちの第3学年から第5学年までの視力検査結果の推移を見ることで、現在目の健康に困っていないと感じている児童も自分事として捉えることができるようにする。</p> <p>○裸眼視力1.0以下の児童が年々増加していることについてグラフを見せながら伝え、視力低下についての問題意識をもたせる。</p>		
	自分の目を守るためにできることを考えよう。			
展開 さぐ	<p>2 自分たちの生活を振り返り、視力低下の原因について考える。</p> <p>T視力が低下してしまうのはなぜでしょう。自分の生活を振り返って考えてみましょう。</p> <p>Cテレビを長時間見ている</p>	<p>○児童から出た視力低下の原因について板書して残すことで、原因から課題を見付けられるように促す。</p> <p>○アンケート③の「画面を見るときの家でのルール」についてのアン</p>		

<p>見 付 け る</p> <p>28 分</p>	<p>から。 C画面を近くで見ているから。 C暗い所で画面をいじっているから。</p> <p>3 視力低下の原因について知る。（養護教諭より）</p> <p>4 自分の生活上の課題に対して、どのようなことを意識して目を守っていくとよいのか考える。</p> <p>T自分の課題は何かワークシートに書いてみましょう。 Cソファに寝そべってスマートフォンの画面を見ている。 Cゲームに集中すると瞬きを忘れて目が乾燥してしまう。 C夜遅くに暗い部屋で動画を見ている。</p>	<p>ケート結果と、アンケート①の「画面を見ている時間」についてのアンケート結果を提示し、画面を見ている時間が長い児童が多いことや家庭でルールを決めている児童が少ないことに触れ、養護教諭の話へ移る動機付けをする。</p>	<p>○養護教諭の話を聞きながら自分なりの課題やめあてが考えられるよう促す。 ○養護教諭と対話をしながら視力低下の原因について考え、課題意識をもたせる。 ○児童から出なかった目の健康を保持する方法については、資料を活用しながら話をすることで、児童の関心を引き出す。</p>	
--	---	--	--	--

<p>T 自分の課題に合っためあてを考え、ワークシートに書いてみましょう。</p> <p>C スマートフォンやタブレットを見るときは必ず椅子に座って見るようにする。</p> <p>C ゲームを30分したら目を30秒瞑って、目の乾燥を防ぐ。</p> <p>C 夜にどうしても画面を見なくてはいけない時はデスクライトを必ずつける。</p> <p>5 友達のめあてが課題に合っているか、よりよいめあてになるように話し合う。</p> <p>T トリオになって、友達のめあてがよりよいめあてになるように、アドバイスをし合いましょう。</p> <p>C 「距離を離す」というめあては、具体的にどうしたら意識できるかな？</p> <p>C 何分間休憩をするのか具体的に書いた方がよいと思うよ。</p> <p>C この課題にはこのめあてがよいと思う。</p>	<p>○目の健康を保持する方法について知るだけでなく、自分の課題に合っためあてを立てる必要性をもてるよう促す。</p> <p>○めあてを決めるときには具体的な行動に結び付く言葉で意思決定できるようにする。</p> <p>○めあてを立てることが難しい児童には、個別に声をかける。</p> <p>○担任と養護教諭が話合いの手本を見せることで、より具体的なアドバイスを出し合えるよう補助する。</p>		
---	---	--	--

ま と め 決 め る 10 分	<p>6 自分のめあてや実践方法を決める。</p> <p>T自分のめあてを達成できたか、これから1週間振り返って行くので、めあてを意識しながら生活していきましょう。</p>	<p>○友達からのアドバイスを参考にしながら、自分に合っためあてや実践方法を決めることができるようにする。</p> <p>○アドバイスをし合うことで、課題に合っためあてを立てられた児童を取り上げ、話し合うことの大切さを価値付ける。</p> <p>○記入しためあてを班で伝え合い、お互いに励まし合うようにして、今度の実践への意欲を高めるようにする。</p>	<p>○日本眼科医会から出ている「進む近視をなんとかしよう～3つの大作戦～」の児童用リーフレットと保護者用リーフレットを配布し、家庭でも目の健康を守る行動ができるよう呼びかける。</p>	<p>○自主的に課題解決に取り組む、他者と信頼し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。（態度）【ワークシート、観察】</p>
---	--	---	---	--

(3) 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	評価方法
自分が立てためあてや取組などについて振り返る。	家庭環境に配慮し、できた・できないではなく、意識できたかで価値付けるようにする。	自分の課題に合った具体的なめあてや実践方法に、進んで取り組んでいる。（思考・判断・表現） 【めあてカード・観察】

(4) 授業観察の視点

- ・視力が低下した実感がある子もない子も、今後自分の視力を守るための対処法を課題と結び付けて考えることができていたか。（個別最適・課題解決①）
- ・トリオで話し合うことを通して、よりよい作戦になるようにアドバイスし合い、自分の課題に合った具体的な実践目標をもつことにつながったか。（対話・協働①）

(5) 板書計画

自分の目を守るためにできることを考えよう。

自分たちの 3 年生から 5 年生
の視力検査結果の推移のグラ
フ

- ・学年が上がるにつれて視力
が下がっている。
- ・〇年生から〇年生にかけて
視力が大きく下がっている。

視力 1.0 未満の子供の割合

○視力低下の原因は？

- ・テレビを長時間見ているから。
- ・画面を近くで見ているから。
- ・暗い所でタブレットを
いじっているから。

目の休憩
(イラスト)

目の距離
(イラスト)

目のストレッチ
(イラスト)

部屋の明るさ
(イラスト)

外遊び
(イラスト)

・裸眼視力 1.0 以下の児童が年々増えている！

自分の目を守ろう！ めあてカード

名前（ ）

☆今日の学習を振り返りながら、自分のめあてを決めよう。

自分の課題

例) ソファーに寝そべっているから、スマートフォンやタブレットと目の距離が近い。

自分のめあて

例) リビングのいすに座って姿勢を正し、距離を取って見るようにする。

友達のアドバイスを受けて、こんなめあてを考えました！

☆1週間取り組もう！（振り返り…よくできた◎ できた○ できなかった△）

10月6日(月)	10月7日(火)	10月8日(水)	10月9日(木)	10月10日(金)	10月11日(土)	10月12日(日)
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦

☆めあての振り返り

★ご家庭から

--

保護者の皆様へ

今回、子供たちは自分の目の守り方を学習し、自分でめあてを立てて1週間取り組みました。お子様の振り返りを読んでいただき、励ましのコメントを記入していただけると幸いです。よろしくお願いいたします。

第6学年体育科学学習指導案

日 時 令和7年5月16日（金）
第5校時 13：25～14：10
学校名 日野市立平山小学校
対 象 6 年 1 組 27名
わかくさ学級6年 6名
会 場 校庭
授業者 T1 高橋伸幸（主任教諭）
T2 藤田宏樹（教諭）

1 単元名 「ティーボール」

E ボール運動 ウ ベースボール型

2 単元の目標

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
ベースボール型の簡易化されたゲームの楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によってゲームを行うことができるようにする。	ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えを他者に伝えることができるようにする。	運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①ベースボール型（ティーボール）の行い方について言ったり書いたりしている。 ②ボール操作（ボールを打つ攻撃，捕球したり送球したりする守備など）によって、簡易化されたゲームをすることができる。 ③ボールを持たないときの動き（チームとしての守備の隊形をとる，走塁をするなど）によって、簡易化されたゲームをすることができる。	①ルールを工夫している。 ②自己やチームの特徴に応じた作戦を選んでいる。 ③課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	①ベースボール型（ティーボール）に積極的に取り組もうとしている。 ②ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。 ③場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。 ④勝敗を受け入れようとしている。 ⑤仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑥場や用具の安全に気を配っている。

4 単元について

(1) 単元観

本単元は小学校学習指導要領（平成29年3月告示）体育 第5学年及び第6学年 E ボール運動

- (1) 次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技能を身に付け、簡易化されたゲームをすること。
- ウ ベースボール型では、ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって、簡易化されたゲームをすること。
- (2) ルールを工夫したり、自己のチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

を受けて設定した。また、小学校学習指導要領解説体育編（平成29年7月）の内容を踏まえ、本単元における児童に味わわせたい運動の特性を以下のようにまとめた。

○一般的特性

- ・ 競い合う楽しさに触れたり、友達と力を合わせて競争する楽しみや喜びを味わったりすることができる運動である。
- ・ 基本的なボール操作とボールを持たないときの動きを身に付け、ゲームを楽しむことができる運動である。
- ・ ボール操作の技能は「打球」「捕球」「送球」である。
- ・ ボールを持たない時の動きは「空間・ボールの落下点・目標に走り込む」「見方をサポートする」「相手のプレーヤーをマークする」などである。

○児童から見た特性

- ・ 「遠くへボールを飛ばし、大量得点につなげる。」「守備のいないところにボールを打つ。」「仲間にうまくボールを投げる。」「相手チームを早くアウトにさせる。」などが上手くいったときに楽しさや喜びを感じる運動である。
- ・ チームに貢献できたときに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。
- ・ チームで作戦を決め、ゲームで実行し、成功したときに楽しさや喜びを感じる運動である。

(2) 児童観

ア 教師から見た実態

本学級児童は体を動かすことが好きで、休み時間にはクラスの8割以上の児童が校庭に出て鬼遊びやボール遊びを行っている。優しい児童も多く、「友達を理解する」や「良さを見付ける」という「認め合いの眼」も育っていると言える。一例として、昨年度転入してきた外国籍の児童には、クラスの誰かがフォローをし、クラス全体で助け合う姿が見られている。また、個人の活動よりもペアまたは集団の方が得意という児童が多い一方、内気な性格の児童が多いため、「誰か任せ」にしている場面もこれまで多く見られてきた。

さらに、個別に配慮を要する児童もいたり、わかくさ学級児童と共同体育を行ったりすることからも、本単元で「みんなが楽しめる体育」を実現できる授業を目指したい。

イ 実態調査

調査方法：選択式・記述式アンケート 調査時期：令和7年4月

調査対象：6年2組27名 わかくさ学級6年6名 計33名

① 体育の学習は好きですか。

好き…22人 どちらかというとき好き…7人

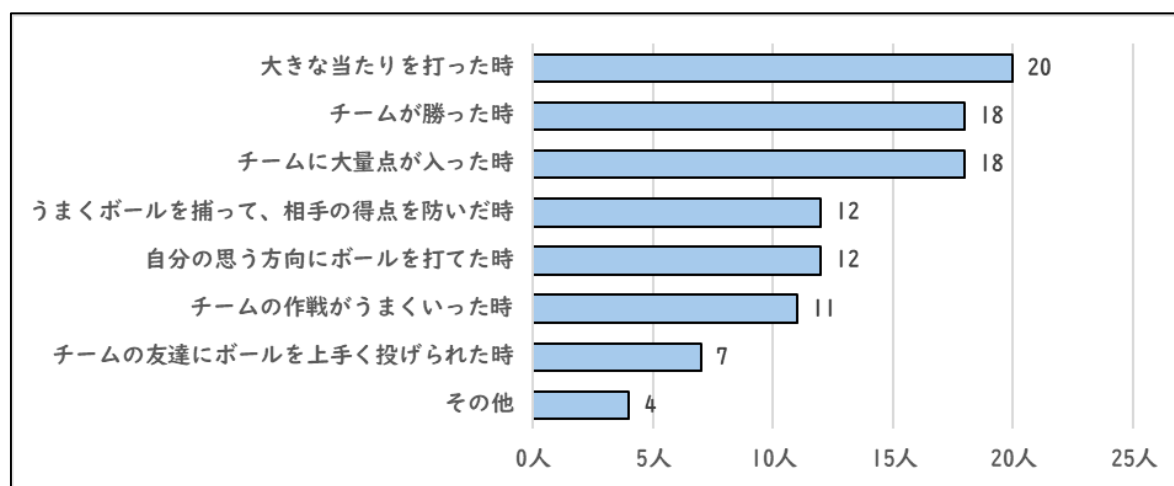
どちらかというとき好きでない…3人 好きでない…1人

② ティーボールの学習は好きですか。

好き…18人 どちらかというとき好き…12人

どちらかというとき好きでない…1人 好きでない…2人

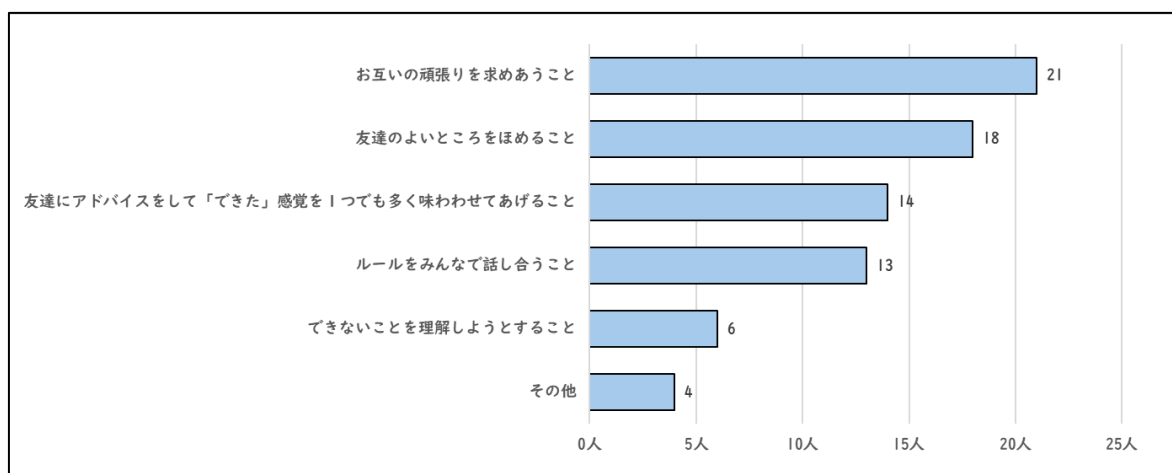
③ ティーボールの学習が「楽しい」、「嬉しい」と思える瞬間はどのような時ですか。（複数回答可）



「その他」の回答

- ・全員がルールをしっかりと守れていたときは楽しいと思う！
- ・負けてもみんなでまた頑張ろうとすること。相手チームがよい作戦で来たときそれがうまくいったとき（悔しいけどその作戦を真似できる）
- ・全部
- ・そもそもない

- ④ 全員（６－１とわかくさ学級６年）が楽しめる体育を目指すには何が必要だと思いますか。
（複数回答可）



「その他」の回答

- ・みんな平等に体育を行う
- ・同じようにできるだけ接してあげること
- ・わかくさ学級が運動をがんばってくれと嬉しい！
- ・弱いもののいじめをしないこと

ウ 分析・考察

①②の結果から、児童は体育の学習について８割以上、ティーボールの学習については９割以上好意的に捉えていることが分かる。③の結果から「大きな当たりを打った時」、「チームに大量点が入った時」、「チームが勝った時」に楽しさや嬉しさを感じる児童が多くいることが分かった。これらのことから本単元では、進塁で得られる得点だけでなく、打撃後にバットをポートボール台（裏返して「箱」として使用）に入れると１点獲得できるというルールを作った。こうすることで、内野ゴロとなってもバットさえポートボール台に入れば、全員が確実に得点できるようになる。また、④の結果から「お互いの頑張りを認め合うこと」や「友達のよいところを褒めること」が「全員が楽しめる体育」を目指す手だての１つになると考えられる。そこで、作戦タイム時に「ほめほめタイム」を設定した。誰かに称賛されることで、自分のプレーに自信が湧いたり、失敗しても次につなげられる気持ちを生み出したりすることができ、さらにチームの雰囲気もよくなっていくと考えた。

(3) 教材観

ベースボール型は、ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって簡易化されたゲームをして、集団対集団などの攻防によって競い合う楽しさや喜びを味わうことができる運動である。本単元のルールでは、進塁するごとに獲得点が増えるようにしたり、裏返したポートボール台にバットを入れると確実に点を獲得できるような工夫をしていたりするため、「打つ楽しみ」、「チームに貢献できる喜び」を味わうことのできる教材であると言える。一方で「時間の読み」が難しい教材でもある。静止しているボールに当てるのも難しい児童がいたり、長打によるボールからアウトにするまでの時間が伸びたりと、それらが重なってゲーム時間や作戦タイム時間の十分な確保ができなくなってしまう懸念もある。

上記のことから、1 スイングでボールに当てられるよう片手でも振れるバットを準備したり、児童からの意見でアウトゾーンをゲーム前に移動できるルールを作ったり、ボールをティーに乗せる係もチームごとに決めさせたりした。4 5 分間の中に「ゲームにつながる運動」や「ゲーム」、「作戦タイム」など多くの学習を設定しているため、慌ただしくなることが予想されるが、チームで協力し、児童らでつくる授業を行い、励まし合い、友達を認め合いながら「みんなが楽しめる体育」の実現を目指したい。

5 研究主題に迫る手だて

(1) 個別最適・課題解決

① 学習者用端末を使った振り返り

授業後の振り返りは学習者用端末を使って振り返りを行うようにする。全員の振り返りを見ることができるようになるため、①「友達の意見を参考にして書くことができる」、②「チームメンバーの振り返りと自分の考えを簡単に比較・共感できるようになる」というメリットがある。また、保存性もあるため、子供たちがいつでも過去の自分の授業の様子を振り返ることができる。さらに、毎時間の記録を一目で見ることができるため、授業後との自分の変容を一目で見ることができる。

② 全員が授業に参加できるような工夫

支援を必要とする児童や、運動に苦手意識をもっている児童も少なくない。すべての児童が同じようにボールを打ったり、ボールを捕ったりすることに難しい実態がある。そこで支援が必要な児童やスポーツへのアクセスが少ない児童には役割を与え、東京型体力向上モデルの「する・みる・支える・知る」の運動の多様な関わり方の観点に沿った自分に合ったかたちで学習に参加し、チームに貢献できるような参加の工夫を行う。第5時まで、チームごとの練習の仕方や記録としてビデオ撮影をする「ビデオ撮影係」やバットで球を打つが、走塁はチームメイトに任せる「攻撃専門」といったそれぞれの児童に合わせた参加の仕方をつくってきた。個別の役割をもたせる際には参加の仕方を当該児童と相談したり、児童同士の相談の中で役割を決めたりしてきた。他にも静止している打球を確実に打てるようバットの選択の工夫も行う。通常バットとバドミントンのシャトルケースで作った筒バットの2つから選べるようにする。この筒バットのよさは、「①軽量のため片手でスイングできる」、「②短くミートがしやすい」ところにある。道具の工夫を行い、全員が攻撃のチャンスを作れるようにしたい。

これらのよう一人一人が主体性をもてるような学習のデザインをすることで、「みんなが楽しめる体育」を実現できるのではないかと考えた。

(2) 対話・協働

① チームごとの作戦タイム(ほめほめタイム)

2時間目以降、試合時間とチームの作戦時間も十分確保するようにしてきた。児童らのアンケート調査から「お互いの頑張りを認め合うこと」「友達のよいところを褒めること」がティーボールの学習の「楽しい」、「嬉しい」のつながりに期待できると考えられるため、話し合いでは「ほめほめタイム」を設定した。「ほめほめタイム」では1分30秒間で、前半の試合を振り返ってメンバーの良かったプレー、行動などを伝え合う。この時に、チームメイトを褒めるのに迷いがあり、何を言ってよいか自信のない児童には作戦ボードにある「ほめほめ言葉参考カード」を参考にさせたい。「〇〇くんの守備の□□がよかったよ!」というように、友達のティーボールにおける技能面を支えるようなほめほめ言葉を例示する。失敗したプレーがあっても友達に励まされたり、うまくできたプレーは友達からよい評価をもらったりすることで、自己効力感や意欲を高め、また次の試合を迎える心の準備をしたり、信頼できる雰囲気を作り、チームワークを高めたりすることが狙いである。

② 作戦ボードを活用した話し合い

チームで行う話し合いには作戦ボードを活用するようにする。作戦ボードには、①「自分の名前を書いた打順と守備のマグネット」、②マグネットを活用した「アウトゾーン」、③イラストで示す「ゲームにつながる運動カード」、④「ほめほめ言葉参考カード」、⑤「めあてカード」がある。作戦ボード上にこれらのカードがあることで児童一人一人が練習や試合に向けてのイメージをもちやすくなり、話し合いがスムーズに行えるようになると思った。

6 単元(題材)の指導計画と評価計画(全8時間)

時間		1	2	3	4	5	6（本時）	7	8
問題解決の流れ		つかむ				広げる			まとめる
ねらい		目標やルールを知り、ゲームを楽しむ。	チームの課題を見つけ、練習とゲームを通してうまくできる（投げる・捕る・走る・打つ）ポイントを見つける。			チームの特徴に応じて、作戦や練習を選び、チームの目標に向かって課題解決する。			ゲームを楽しみ、個人やチームでの成長を実感する。
主な学習活動		1 挨拶 2 単元の見通しの確認 3 本時のねらいの確認 4 準備運動 5 場や用具の準備、ゲームにつながる運動 6 ゲーム	1 整列、挨拶 2 本時の見通し 3 準備運動 4 場や用具の準備						
			5 ゲームにつながる運動 6 ゲーム①（総当たり戦） 7 作戦タイム（チーム） 8 ゲーム②（総当たり戦）（①と同じ相手） 9 チームごとの振り返り	5 チームのめあて決め 打順や守備位置確認 ゲームにつながる運動（チームごと） 6 ゲーム①（総当たり戦） 7 作戦タイム（チーム） 8 ゲーム②（総当たり戦）（①と同じ相手） 9 チームごとの振り返り	5 チームのめあて決め 打順や守備位置確認 ゲームにつながる運動（チームごと） 6 ゲーム①（総当たり戦） 7 作戦タイム（チーム） 8 チーム②（総当たり戦）（①と同じ相手） 9 チームごとの振り返り 9 ティーボール授業の振り返り（全体）				
		本時の振り返り（全体）、次時への見通し 整理運動 健康観察 挨拶 用具の片付け 教室にて振り返り（個人）							
評価（方法）	ア 知・技	① （行動観察・振り返り）	② （行動観察）	③ （行動観察）	① （行動観察・振り返り）			① （行動観察・振り返り）	① （行動観察・振り返り）
	イ 思・判・表				① （行動観察・振り返り）	② （行動観察）	③ （行動観察）		
	ウ 主	③ （行動観察）	② （行動観察）	④ （行動観察）		⑤ （行動観察）	① （行動観察）	⑥ （行動観察）	⑤ （行動観察）

7 本時(全8時間中の第6時)

(1) 本時の目標

◎積極的にティーボールに取り組もうとしている。(学びに向かう力、人間性等)

○課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。

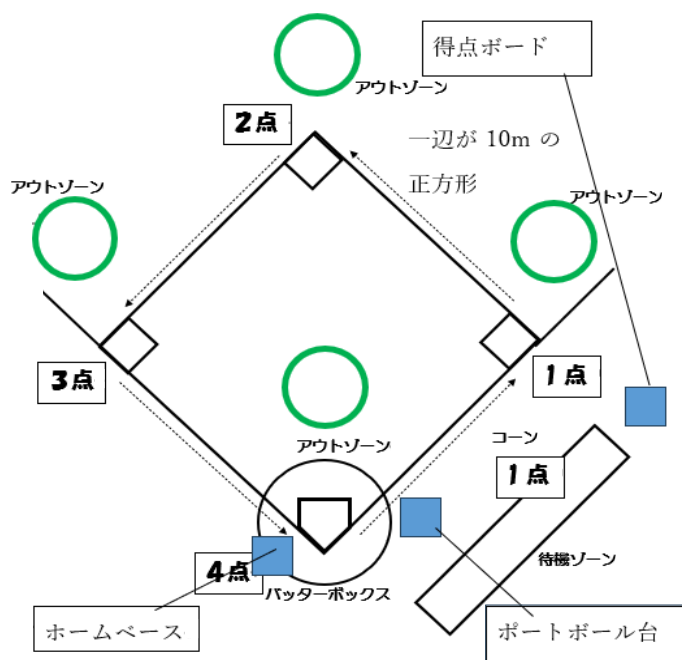
(思考力、判断力、表現力等)

(2) 本時の展開

	学習内容・学習活動	○指導上の留意点や配慮事項	評価規準
導入 13 分	1 集合、整列、挨拶 2 本時の見通し	○服装など安全確認をする。 ○前時で変わったルールや良かったチームを取り上げ褒め・価値付け本時の学習に生かせるようにする。	
	<div>(当日児童から引き出す) (みんなで作戦を話し合い、楽しく試合をしよう。)</div>		
	3 試合前の準備 ・準備運動 ・場や用具の準備 ・チームのめあて決め ・打順や守備位置確認 ・ゲームにつながる運動（チームごと）	○チームごとに分担した場所を準備できるように声掛けをする。 ○よく動かす部位をよくほぐすように声掛けをする。 ○ホワイトボードを使って、守備位置や打順の確認をさせたり、チームのめあてを決めさせたりする。 ○複数あるゲームにつながる運動からチームに合った練習方法を選択させる。 ○運動が苦手な子に、参加の仕方や使う道具の確認をする。	
展開 27 分	4 ゲーム①（総当たり戦）	○チームの課題解決に向けて、作戦や役割を意識して行動している児童やチームを称賛し、全体に広げていく。	ウ-①
	5 作戦タイム（ほめほめタイム）3 分	○作戦タイムの前半終了時に笛を吹き、ほめほめタイムに入るように合図を送る。 ゲーム①と同様の声掛けをする。	イ-③
	6 ゲーム②（総当たり戦） ※同じ相手と「後半戦」を行う。	○チームのめあてを達成できたか、近付けたか、試合をチームで振り返らせる。	ウ-①
	7 振り返り（チーム）		イ-③

<p>まとめ 5分</p>	<p>8 振り返り(全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームや友達の良かったところ ・ルール of 改善点 <p>9 整理運動</p> <p>10 健康観察、挨拶</p> <p>11 用具の片付け</p> <p>(12 個人の振り返り)</p>	<p>○チームの振り返りで出てきたことや本時のめあてと正対した振り返りができていた児童やチームを取り上げたり、ルール of 改善点について振り返ったりしてもらい、全体で共有する。</p> <p>○運動で使った部位をほぐすようにする。</p> <p>○怪我の有無の確認をする。</p> <p>○チームで協力し、安全に気を付けて用具を運ぶよう声掛けをする。</p> <p>(○入力が難しい児童には、個別に声掛けを行い、言葉を引き出させてから入力させるようにする。)</p>	
-------------------	---	--	--

(3) 場の設定

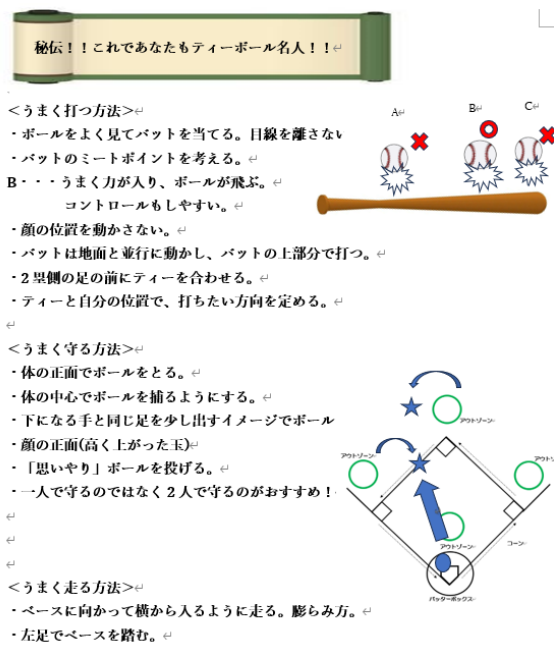


(4) 授業観察の視点

- ・全員が楽しみながら授業に参加することができていたか。(個別最適・課題解決②)
- ・チームごとの作戦タイム(ほめほめタイム)は「全員が楽しめる体育」を目指すための手だてとして有効だったか。(対話・協働①)

(5) 授業で使用した資料について

- ・ 本校職員によるお手本動画
- ・ 打ち方のポイント資料



・ 学習者用端末を活用した振り返りシート

	4月15日	4月21日	4月28日
個人の様子	<p>①結果 ②やってみたい ③出来のよかったところ ④みんなが楽しめるようにするには何を改良したらよいか。</p>	<p>①結果 ②チームの振り返り(うまくできたこと・もう少し頑張れたこと) ③チームの振り返り(うまくできたこと・もう少し頑張れたこと) ④みんなが楽しめるようにするには何を改良したらよいか。</p>	<p>①結果 ②チームの振り返り(うまくできたこと・もう少し頑張れたこと) ③チームの振り返り(うまくできたこと・もう少し頑張れたこと) ④みんなが楽しめるようにするには何を改良したらよいか。</p>
先生から	例えはどんなことでもいいぞ！教えて！	声掛けがうまくできたんだね！どんな声掛けができた？	おめでとう！初勝利！すごかったね！どうやって勝ったの？

	4月15日	4月21日	4月28日
個人の様子	<p>①結果 ②やってみたい ③出来のよかったところ ④みんなが楽しめるようにするには何を改良したらよいか。</p>	<p>①結果 ②チームの振り返り(うまくできたこと・もう少し頑張れたこと) ③チームの振り返り(うまくできたこと・もう少し頑張れたこと) ④みんなが楽しめるようにするには何を改良したらよいか。</p>	<p>①結果 ②チームの振り返り(うまくできたこと・もう少し頑張れたこと) ③チームの振り返り(うまくできたこと・もう少し頑張れたこと) ④みんなが楽しめるようにするには何を改良したらよいか。</p>
先生から	本気で走っていいんだよ！	本気で走れたのはすごくよかったね！次はバットイングの練習だね！	本気で走れたのはすごくよかったね！次はバットイングの練習だね！

(6) 参考文献

- ・ 小学校学習指導要領解説体育編（平成29年3月）文部科学省
- ・ ウェルビーイングを高める体育（令和6年8月）梅澤秋久
- ・ スポーツ庁 ベースボール型「ティーボールを基にした簡易化されたゲーム」